

「妖怪は文化だ！」を考える

高橋 郁丸

常々「妖怪は文化だ！」と宣言しておりますが、これはご当地の妖怪を語ることは、新潟の文化を語ることだという意味です。そこで、地域の方々がどのくらいご当地妖怪に愛着を持っているのか知りたくなり、アンケートを取ってみました。県内の二〇市町村に加え、合併前の百十二市町村が区として残っているとところにもなるべくアンケートをお願いしました。結果、アンケートをメールでお送りしたのは七十七カ所、うち二十通のお返事をいただきました。県外には妖怪を町おこしの起爆剤として売り出している地域はたくさんありますが、新潟

では、なかなか妖怪が文化として市民権をえられているわけではないようで、回答が半分以下という結果に、妖怪研究所の活動はまだまだと反省しきりでありました。

回答を見てみますと、地元に言い伝えがあることをご存じの所は六割です。拙著「新潟の妖怪」では、「新潟県妖怪地図」という項目があり、百十二市町村一妖怪の地図を作りました。それも地区内の伝説から選抜でしたから、いたるところに妖怪伝説はあるわけです。六割の認知度でも、2や3の回答は、その伝承を地域の顔として使うことに躊躇しているようです。

妖怪は地域の文化ではなく恥部なのでしょうか。このままでは妖怪も、妖怪を取り巻く他の文化も消滅かと心配してしまいましたが、4・

地元の妖怪についてのアンケート

1 貴市町村に妖怪にまつわる言い伝えがあることをご存じですか

はい 60%	いいえ 35%	わからない 5%
--------	---------	----------

2 妖怪にまつわる言い伝えの地を訪ねるツアーなどを企画したいと思いませんか

わからない 55%	いいえ 25%	はい 20%
-----------	---------	--------

3 妖怪にまつわる言い伝えの名を物産品に冠したいと思いませんか

わからない 55%	いいえ 25%	はい 20%
-----------	---------	--------

4 妖怪にまつわる言い伝えを市町村の大切な文化と思いませんか

はい 55%	わからない 45%
--------	-----------

※いいえ 0%

5 妖怪にまつわる言い伝えを子どもたちに伝えていきたいと思いませんか

はい 60%	わからない 40%
--------	-----------

※いいえ 0%

5を拝見すると、後世に伝えるべきものであることに否定する方がいらつしやらなかったのが将来へつなぐ希望を感じられました。アンケートの後半部分では、地域のイチ押し妖怪を聞いてみました。代表的なところで、新潟市北区では福島潟の予言獣である「亀女」、長岡市和島「桑原家の河童伝説」、長岡市寺泊「八百比丘尼」、小千谷市「真人むじな」、加茂市「ばれおん地蔵」、燕市「酒呑童子」、糸魚川市「上路の山姥」、五泉市「慈光寺の天狗と大蛇伝説」、関川村「大里峠伝説」、聖籠町「大眼」。妖怪を活用している例としては、新潟市南区で「白根子行列」「タヌキの婿入り」、燕市「酒呑童子行列」、糸魚川市「上路の山姥（上路山村振興センター・山姥の里）、市指定文化財「上路山姥の伝説地」6点、山姥にちなんだ菓子の開発「地元小学生

《石川雲蝶 西郷寺・永積寺》を訪ねる旅》



2012年に新潟妖怪研究所が発足してから2年、今年は生誕200年を迎える石川雲蝶を軸に心づなツアーを開催いたします。雲蝶の傑作、西郷寺(粟山家(魚沼市))と永積寺(魚沼市)を、雲蝶の影を妖怪の語も交えて高橋都夫市長が詳しく解説します。また、秋の通りの「雲蝶」(青木道雄・魚沼市)も訪ねます。ぜひお友達やご家族でご参加ください。

- 旅行日 平成26年9月23日(祝)
- 出発時間 午前8時30分(受付は8時15分から) 解散は午後4時半頃の予定。
- 集合・解散場所 新潟駅南口 ジェルク駅前
- 参加費 お一人6,800円 歴史・妖怪みやげ付き
- 乗車人員 40人(最少乗行人員25人)
- 締切り日 定員になり次第締め切ります。
- 参加費所属 未定
- 企画 新潟妖怪研究所



お名前	ご住所	電話番号(携帯等)

H26 「石川雲蝶を訪ねる旅」

新潟妖怪研究所長島健郎丸と行く「新潟の妖怪と出会う旅」



新潟に妖怪研究所が発足しました。研究所主催で初めての「妖怪ツアー」を開催いたします。第三部屋守屋氏の歴史取組資料、雲蝶のイラストと都井氏で有名な西生寺(長岡市)、酒呑童子ゆかりの湯上(新潟市)を巡る旅を、高橋都夫市長の楽しく詳しい解説付きで開催します。ぜひお友達やご家族でご参加ください。会員以外の方の参加も歓迎です。

- 旅行日 平成24年11月17日(土)
- 出発時間 午前9時(受付は8時45分から) 解散は午後5時頃の予定。
- 集合・解散場所 新潟駅南口 ジェルク駅前
- 旅行代金 お一人5,500円(会員料6,000円)。妖怪クッキーのおみやげ付き
- 乗車人員 40人(最少乗行人員15人)
- 締切り日 定員になり次第締め切ります。
- 参加費所属 高橋やひこ製菓 新潟館(原案にも入れます)
- 主催 新潟妖怪研究所

お名前	ご住所	電話番号(携帯等)

H24「新潟の妖怪と出会う旅」

(参考)平成三十年度 妖怪ツアー
 平成三十年度の妖怪ツアーは五泉市の瀧谷慈光寺、阿賀町の将軍杉、阿賀野市の旦飯野神社、瓦テラス、瓢湖を尋ねました。
 十一月十七日土曜日、新潟駅南口に集合、バス移動で慈光寺に。慈光寺は、南北朝時代、後醍醐天皇を支えた楠木正成公の直孫、傑堂能勝禅師によって開かれた白山という山の麓にあ

妖怪に親しみ、文化として感じていただくには旅をしてその土地に触れあうことが早いようです。妖怪講座の延長としてツアー企画を頼まれることもありますし、妖怪研究所でも過去に三回のツアーを開催したことがあります。機会がありましたら今後も妖怪を訪ねるツアーを開催したいと思えます。妖怪に会いに行きましよう！



る、自然豊かなお寺です。慈光寺五十二世住職佐藤信雄さんよりお話を伺いました。傑堂能勝禅師は、当初は南朝再建のために武将として戦っていましたが、

怪我のために仏門に入られたのだそうです。白山の山奥に住む夫婦の大蛇が、たびたび大雨や

洪水を起こすので、傑堂能勝禅師は七日七晩説法をして大蛇を改心させたそうです。大蛇の一匹は滝谷川、能代川、小阿賀野川、信濃川を通じて新潟市中央区の白山神社にたどり着き、現

在「蛇松明神」として祀られています。もう一匹は長岡市蓬平にたどり着き、高龍神社の御神体になったそうです。ご住職からは寺の中を細かくご説明いただき、希望者は御朱印もいただきました。一同、寺の歴史と荘厳な七堂伽藍に感激いたしました。また、駐車場から寺までの参道は、とても趣きがあり、「龍神杉」という龍の姿をした枝を持つ杉の木も神秘的でした。



二カ所目は將軍杉。將軍杉は平成十二〜十三年に環境省が行った「全国巨樹・巨木林フォロ―アップ調査」の杉の部で日本一の巨木となっています。樹齢は推定千四百年。陸奥鎮守府將

軍、平維茂にちなんで將軍杉と名づけられました。ある時、船の帆柱の部材として伐採されそうになった時に、一夜にして枝下の部分まで木が沈んでしまい、現在の姿になったのだそうです。それ以来、村の人たちはこの杉を恐れて手厚く保護しているのだそうです。巨木は長く人を見ているせいか、人を圧倒する存在感がありました。また訪れたい地です。



阿賀の里で昼食をとったあと、安田の瓦テラスへ行き、安田瓦の鬼瓦を拝見しました。残念ながら天気も悪かったので、瓦ロードの散策はあきらめました。その後、旦飯野神社を訪れました。この神社は若者の間で人気となっている神社です。本殿の後ろにある「御神霊石」と呼ばれる巨大な丸い石は、願いを込めて触るとご利益があるといわれています。昔、佐渡方面で光り輝く玉が出現し、佐渡の人々が後を追ってみると、この丘の上に降臨した。訪ねてみると旦飯野神社があった、という言い伝えがあるそうです。この話を知らなくても、この石を見ると





誰もが驚く神秘的な石です。参加者も皆さん、この石に触れて願いごとをしていました。

旅の最後に白鳥で有名な瓢湖を訪れました。たくさん水鳥たちに、しば

し癒されました。今年度は盛りだくさんで、慌ただしい旅でした。もう少しのんびり楽しんだ方がよかったかなと反省点があります。楽しんでいただけたと思います。できれば毎年度、遠足のようにありますが、研究所会員で妖怪ツアーを楽しみたいです。ご意見お待ちしております。(妖怪通信より転載)

【コラム】「福島潟の亀女」嘉永二年(1849)、福島潟に夜な夜な光りものが出現し、芝田という者が見に行くこと怪しいものは「悪い風邪がはやるので自分の姿を描いて広めよ」と言い、『藤岡屋日記』、その摺物が流行ったといっています。最初は「海中の人」と呼ばれ、摺物の種類が増え後には姿も変わり「亀女」と呼ばれるようになりました。(高橋郁丸)

